

Ⅲ-3 子どもとのコミュニケーション

対象：小学校低学年～中学年の子を持つ保護者
時間：90分程度

ねらい	日常生活の中で、子どもと豊かなコミュニケーションをとるために、親として子どもとどう関わるか考える機会とする。		
実施のポイント	○日頃の子どもとの関わりについてふりかえることができたか？ ○子どもとコミュニケーションをとるときに大切なことについて考えることができたか？		
事前の準備	○会場設営（1グループ4～6名程度の机といす） ○名簿によるグループ分け ○テキストの印刷（4分割して配布できるように印刷） ○筆記用具 ○ストップウォッチ ○付箋紙 ○模造紙 ○マジック		
時間	アクティビティの展開	展開のポイント	準備物
導入 20	ワーク1 聞き方に注目する 1) グループ内で名前程度の自己紹介をしてもらった後、ペアを作る。 2) 「昨日食べた食事について」「好きなテレビ番組」等を話してもらおうと予告し、少し考える時間を取る。話してもらう時間は3分と指定する。 3) 自己紹介の仕方を説明し、ワークを行う。 4) 話した側にしたことを発表してもらおう。 5) 役割を交代してもらおう一度行う。 6) 聞き手の態度で、感じ方が違うことに触れて、自己紹介を終了とする。	◇聞き手 a. 自然に聞く b. ただ聞く（うなずいたりしない） c. ○○しながら顔を向けずに聞く ○1分ごとに知らせ、聞き手の状況を a、b、c、と変えるよう声をかける。 ○片方が終わったら、聞き手と話し手の役割を交代して同じように進める。 ○発表の人数は参加者全体の人数によって、全員に発表してもらっても良いし、グループ内で話し合ってもらっても良い。 ○聞き手の態度として“参加者から「視線」「うなずき」等があると、よく聞いてくれると感じ話し手は満足する”、話し手の態度についても同様の意見があったときは強調しない程度に取り上げる。（ワーク2の活動で、ふり返るようにする）	ストップウォッチ
書き込み 10	ワーク2 エピソードについて考える 1) エピソードを読み、「恵美子さんについて」「ナオミさんの気持ち」について、各自考え、ワークシートに書き込む。 ----- ワーク3 恵美子さんの対応について考える 1) 恵美子さんはどのように対応すれば良いと思うか考えをワークシートに書き込む。 -----	○ファシリテーターが読み上げた後、グループごとに二人に割り振りグループ内で読んでもらう。 ○ワークシートを活用し、各自に自分の考えを記入してもらおう。	ワークシート
話し合い 15 合計 25	ワーク4 グループで話し合う 1) ワーク2、3で書き込んだ内容についてグループで話し合う。	○なぜそう思うのか理由を含めて話し合えるよう声をかける。	
書き込み 10 話し合い 20 発表 10 まとめ 5～10 合計 45	ワーク5 コミュニケーションをとるのに大切だと思うこと 1) 各自が「コミュニケーションをとるために大切だと思うこと」を、付箋紙に書く。（付箋紙 1枚に1つ書く） 2) 各自の意見を元にグループで話し合い、分類する。（KJ法） 3) 分類した意見の中で、特に大切だと思うものを、各グループで3～5項目選んで発表してもらおう。 4) 必要に応じて、各グループの意見を比較し、共通のものや気になる意見などを発表してもらおう。	○ワーク1～4の体験や話し合いから、考えるよう促す。 ○各自が書いた付箋紙をグループの中央に出し合い、共通の意見はまとめていくつかのまとまりに分類する。 ○分類した意見に、見出しやタイトルを付ける。 ○各グループの意見が比較できるような、発表・記入の方法を工夫する（一覧表への記入や模造紙を掲示する。） ○時間があれば、資料を読み上げ、発表された内容と関連させてファシリテーターがコメントし、グループワークのまとめとする。	付箋紙 模造紙 マジック

Ⅲ-4 いろんなことにチャレンジしよう!! ～体験のすすめ～

対象：小学校低学年～中学年の子を持つ保護者
時間：90分程度

ねらい	子どもたちは体験を通して、驚きや感動、自然を大切にす心や忍耐など多くのことを学ぶ。しかし、時代の急激な変化とともに、私たちの生活環境が大きく変わってきた今日、子どもたちの「生きる力」を育む様々な生活体験、自然体験の機会も大変少なくなっている。 そこで、親自身が「生活体験」や「自然体験」を通して学ぶことの大切さに改めて気づき、日常生活の中で様々な体験を子どもと一緒にするためのきっかけとする。		
実施のポイント	○子どもにとって、様々な体験を通して学ぶことが大切であることに気づくことができたか。 ○子どもと一緒にできる体験、子どもにさせたい体験を見つけることができたか。		
事前の準備	○会場設営（1グループ4～6名程度の机といす） ○名簿によるグループ分け（意図を持たせたいときはこれに限らない） ○テキストの印刷（A4版2枚に分けて印刷）		
時間	アクティビティの展開	展開のポイント	準備物
導入 20	ワークの主旨説明 ----- アイスブレイク「3つのコーナー」 1) 部屋の隅に [YES] [NO] [?] と書いた紙を張っておく。 2) ファシリテーターが「生活体験」「自然」「体験」に関わる質問をし、あてはまると思えば「YES」、あてはまらないと思えば「NO」、どちらとも言えない場合は「?」のいずれかに、参加者に移動してもらおう。 3) ファシリテーターは、質問ごとにそれぞれのコーナーに分れた参加者に、なぜそう思うのか聞きながら進行する。 (各コーナー3名程度・インタビュー形式) ----- グループ分け・自己紹介 1) 自分の名前、子どもの性別・学年、アイスブレイクの感想などから、1人30秒程度で行う。	〈質問の例〉 Q1. 子どもには、進んでお手伝いをさせている。 YES→どんなお手伝いをさせていますか？ 進んでお手伝いをさせる理由はあるですか？ N O→進んでお手伝いをさせないことに、理由はあるですか？ させたいお手伝いはありませんか？ ?→YESにもNOにも行かなかったことに、何か理由がありますか？ 等 Q2. 休日は、子どもと一緒に過ごす（遊ぶ）ことが多い。 YES→どんな事をして過ごしていますか？ N O→一緒に過ごすことが難しいのには、理由がありますか？ ?→YESにもNOにも行かなかったのには、何か理由がありますか？ 等 ○事前に名簿等で分けておくとうい。	「YES」「NO」「?」と書いた紙
書き込み 5 話し合い 10	ワーク1 「吹き出し」に書き込む。 1) 写真を見て、各自が思いつくことを吹きだしに書いてもらう。 2) 書いたことを、グループで発表し合う。	○なぜそう書いたのか、写真のどこからそのことが浮かんだのか説明をしながら話し合う。	ワークシート 筆記用具
話し合い 10 合計 25	ワーク2 話し合う。 1) 体験を通して、どのように変わっていくと思うか話し合う。	○体験を通して子ども達が変わること、得られること等をグループ内で自由に話し合う。 ○意見が出にくい場合は、ワーク1で考えた子どもと同じような言葉や、写真の表情等から考えてみるよう促す。	
書き込み 10 話し合い 15	ワーク3 「体験から得るもの」 1) データの説明をする。 2) 各自が、付箋に体験から得られるものを3つ書く（付箋紙1枚に1つ書く）。 3) 各自の意見を元にグループで話し合い、分類する。（KJ法） 4) 分類したものから、大切だと思うものを3つ選び、ベスト3を決める。	○生活体験や自然体験について説明をするともに、体験がある子どもほど、道徳観や正義感もあるということを説明する。 ○ワーク2の話し合いや、データを基に考えるよう促す。 ○各自が書いた付箋をグループの中央に出し合い、共通の意見はまとめ、分類する。 ○分類した意見に、見出しやタイトルを付ける。 ○特に、順序づけはしなくてよい事を伝える。	付箋紙 模造紙 マジック

<p>発表・協議 10</p> <p>合計 35</p>	<p>5) それぞれのグループベスト3を掲示し、なぜそう思うのか発表してもらおう。</p> <p>6) 必要に応じて、各グループの意見を比較し、共通のものや気になる意見などを発表してもらい、全体で協議をする。</p>	<p>○黒板などに一覧表を作り、各グループのベスト3を記入してもらおう。</p> <p>○グループ数が小数なら、模造紙に記入したものを、そのまま掲示してもよい。</p> <p>○特に、全体の意見をまとめる必要はない。</p>	
<p>まとめ 15</p>	<p>ワーク4 「体験」を考える。</p> <p>1) 子どもと一緒にできる「体験」や、させたい「体験」を思いつくままに書く。(各自)</p> <p>2) グループ内で発表しながら、子どもと一緒にできる、子どもにさせたい「体験」を選ぶ。</p>	<p>○特別なことではなく、お手伝いや遊びを含めた生活体験、自然体験で良いことを伝える。</p> <p>○「体験」を子どもに押しつけるのではなく、「一緒に考え、一緒に体験する」という視点が大切なことを伝え、家庭でも子どもと一緒に考えるよう伝えて、まとめとする。</p>	<p>ワークシート 筆記用具</p>